

高額な外来診療を受ける皆さまへ

平成24年4月1日から、外来における高額な薬剤治療や放射線治療などの高度な診療にかかる費用に関して、高額療養費制度が一部変更となりました。

右記の証書の提示があれば、**1ヶ月の負担上限額***を超える分を窓口で支払う必要はなくなり、安心して治療が受けられます。

- 70歳未満の方**…[限度額適用認定証]
(ご加入の健康保険組合などに交付を申請して下さい。認定証の提示がない場合は従来どりの手続きとなります。)
- 70歳から75歳未満の方**…[高齢受給者証]
- 75歳以上の方**…[後期高齢者医療被保険者証]
- 70歳未満・70歳以上ともに低所得の方**
…[限度額適用・標準負担額減額認定証]

1ヶ月の負担上限額*

<70歳未満の方の場合>

所得区分	1ヶ月の負担上限額
上位所得者	150,000円+(総医療費-500,000円)×1%
一般	80,100円+(総医療費-267,000円)×1%
低所得者	35,400円

<70歳以上の方の場合>

所得区分	1ヶ月の負担上限額	
	外来	
現役並みの所得者	44,400円	80,100円+(総医療費-267,000円)×1%
一般	12,000円	44,000円
低所得者II		24,600円
低所得者I	8,000円	15,000円

(多数回該当は当院にて確認できる限り有効となります。)

不明な点、詳細については、各保険者または当院の相談窓口にてお問い合わせください。

講習会・イベントのご案内

第68回開放型病床カンファランス 医療関係者向

日時：6月21日(木) 20:00 テーマ：
場所：松波総合病院 3階講堂

講師：『脂質異常症の臨床』
岐阜大学大学院医学系研究科 分子・構造学講座
病態情報解析医学分野 教授 清島 満先生

かかりつけ医院のご紹介



羽島郡 笠松町の ひらたクリニック

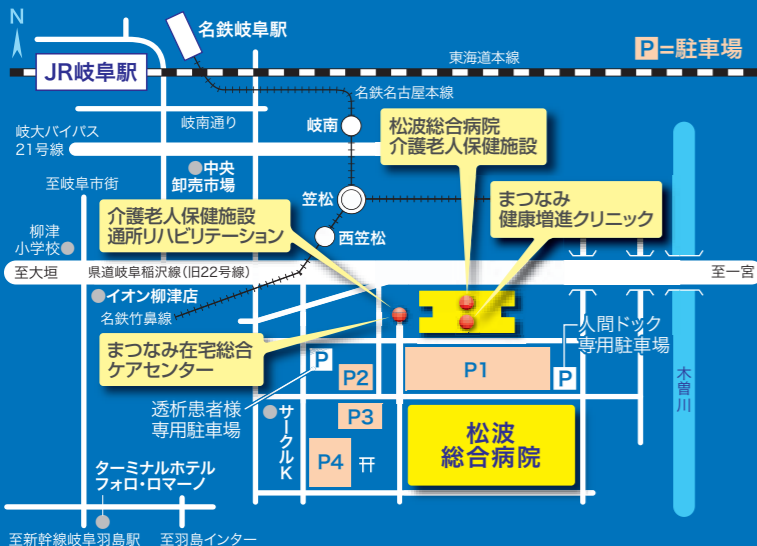
- 脳神経外科 神経内科
- 外科 整形外科 内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後4:00~ 7:00	○	○	—	○	○	—	—

休診日 日曜日・祝日
〒501-6004
岐阜県羽島郡笠松町
田代325-1
☎ 058-387-3378
FAX 058-387-3317

院長：平田 俊文

これまでの臨床経験を活かし、脳神経外科疾患以外でも分かりやすい医療をモットーに、皆さまに信頼されるホームドクターを目指し努力する所存でございます。



遠方よりお越しの方



お気軽にお問い合わせください。

☎ 058-388-0111
http://www.matsunami-hsp.or.jp/



当院は、病院内・敷地内
全面禁煙です。
皆様方のご理解とご協力
をお願いします。

松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1

患者さまと
病院をつなぐ
かけはし
No.152
MATSUNAMI

まつなみ

2012
6

発行
社会医療法人
蘇西厚生会

Clinical Talk

乳がんは早期に発見・治療すれば、決して怖い病気ではありません。

乳がんは日本人の女性の16人に1人がかかるといわれ、女性のがん死亡原因のトップとなっています。しかし、乳がんは決して治りにくい病気ではありません。早期で見つければ90%以上が治るといいう結果も出ています。「自分はまだ大丈夫」、「忙しくて乳がん検診に行く時間がない」などと思わず、早めに検診を受けましょう。

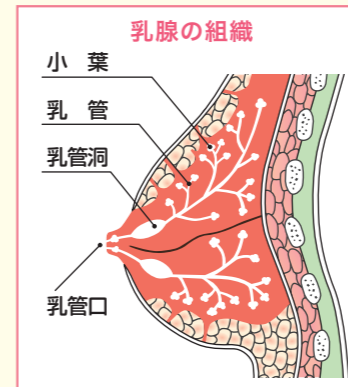


松波総合病院
乳腺内分泌・移植外科部長 花立 史香

専門分野
乳腺外科・腹腔鏡下手術・腹腔鏡下胃切除術・消化器外科
認定資格
日本乳癌学会：認定医・乳腺専門医
日本外科学会：指導医・専門医
日本消化器外科学会：指導医・専門医
日本消化器内視鏡学会：専門医
日本がん治療認定医機構：暫定教育医・がん治療認定医
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会：検診マンモグラフィ読影認定医師

乳がんとは？

乳がんは乳腺に発生する悪性腫瘍で、乳房のしこり、乳頭から黒い分泌物が出るなどの症状があります。発症のピークは45歳から49歳で、乳がんと診断された方の30%(約1万人)が死亡されています。また若い世代の乳がんにかかる率も年々上昇しています。



3つの乳がん診断

①視触診

診断の基本で、乳房全体(しこりの有無、大きさ、硬さなど)と脇の下(リンパ節の腫れ)を診察します。

②マンモグラフィ(乳房レントゲン検査)

視触診ではわからないような小さなしこりや石灰化像を見つけるのに有効。圧迫は多少の痛みを伴いますが、被爆軽減にも繋がりますので頑張りましょう。

③超音波検査

視触診やマンモグラフィでは見つけれないような数ミリのしこりも捉えることができる場合があり、とても重要な検査となっています。

②マンモグラフィ



マンモグラフィで見つかった乳がん

③超音波検査



マンモグラフィでは見つからなかった6ミリのがん

乳がんの特性、症状、年齢など 患者さま一人ひとりに適した治療を行っています。

乳がんの治療には、手術療法、薬物療法、放射線療法があり、これらを組み合わせて最大限の効果が期待できる治療を行います。基本は手術によるがんの摘出ですが、再発リスクと術後の整容性を考慮しながら、乳房をすべて切除する「全摘術」か、切除をがん周辺にとどめる「乳房温存療法」かを選択します。当科では2005年より乳房温存療法に取り組み、現在は全乳がんの約80%に乳房温存療法が行われています。さらに乳房を切らず、できるだけ小さな傷で手術できるように内視鏡を用いた手術法も取り入れています。一方、2006年より不要な脇の下のリンパ節切除を行わないためにアイントープ法と色素法によるセンチネルリンパ節生検を行っています。

乳房温存療法が適さなかった患者さまには「乳房再建術」も行っています。

当院の乳がん治療の特色のひとつに乳房再建術があります。これは「失われた乳房を取り戻したい」という患者さんの願いに応えるもので、形成外科チームと連携しながら、患者さま一人ひとりに適した、安全で質の高い乳房再建術を行っています。

視触診・マンモグラフィ・超音波検査 3つのアプローチで乳がんを診断します。

当院では、乳腺専門医が診察のうえ、マンモグラフィ、超音波検査などの所見を総合的に見て診断をしています。

まつなみ健康増進クリニックでは、6月より、「働く女性のための乳腺外来」をはじめました。

乳がんは50歳前後、いわば働き盛りの女性に多く見られるがんです。そういう方は忙しくて検診の機会がなく、気づいたときにはすでに進行していることが多いのが現状です。そこで当科では今年6月より土曜日(午前中)の乳腺外来をスタートいたしました。乳がんは早期発見、早期診断、早期治療に尽きます。月に1度は自己検診、年に1度は定期検診を受けましょう。また、自己検診で異常を感じたら、すぐに乳腺外科を受診してください。

乳腺外科外来のお問い合わせ 058-388-0111 まつなみ健康増進クリニック 外科まで

「第11回 濃尾医療連携セミナー」を開催しました。

平成24年4月21日(土)、岐阜市内のグランヴェール岐山において「第11回濃尾医療連携セミナー」を開催しました。このセミナーは、松波総合病院と地域の開業医の先生方とでつくる「濃尾医療連携研究会」が毎年定期的に開催するもので、11回目を迎える今年は、まず始めに当院の小林外科部長と萩原泌尿器生殖科部長が当院でのがん摘出の腹腔鏡手術で使う手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の取り組みを紹介。人間の手では難しい精緻で安全な手術ができる「ダ・ヴィンチ」の現状と将来について報告をしました。

また、今回は特別講演として、日本の感染症診療をリードする大曲貴夫先生をお招きし、「感染症診療のロジック～外来での抗菌薬治療を中心に～」についてお話いただきました。大曲先生の講演は、具体的な診断の推理過程を当院の研修医2名との対話形式で解き明かしていくというもので、わかりやすく、ユーモアあふれるお話に、会場は大いに盛り上がりました。

【講演プログラム】

- 15:45～ 濃尾医療連携研究会総会
 - 『濃尾医療研究会のこの1年』
松波総合病院 病院長 山北 宣由
- 16:00～ 一般演題
 - 『直腸癌に対するTOTAL ROBOTIC SURGERYの現状』
松波総合病院 外科部長 小林 建司
- 16:30～ ●『ロボット支援前立腺全摘除術の初期経験』
松波総合病院 泌尿器生殖科部長 萩原 徳康
(座長:松原クリニック 院長 松原 俊樹先生)
- 17:00～ 特別講演
 - 『感染症診療のロジック～外来での抗菌薬治療を中心に～』
国立国際医療研究センター病院 臨床疾病センター センター長/科長 大曲 貴夫先生
(座長:不破医院 院長 不破 洋先生)
- 18:10～ 質疑応答
講演後の質疑応答ではさまざまな質問が出たほか、「明日からの外来診療に役立つ講演でした」などの感想もいただき、大変意義のあるセミナーとなりました。

『感染症診療のロジック～外来での抗菌薬治療を中心に～』講演趣旨



国立国際医療研究センター病院
臨床疾病センター センター長/科長
大曲 貴夫

佐賀医科大学医学部卒業。日本内科学会認定内科医、日本感染症学会感染症専門医・指導医、日本化学療法学会抗菌薬化学療法指導医は多数の資格を有し、感染症診療の第一線で活躍。

適切な感染症診療と抗菌薬の適正使用を行うためには、次の5つのロジックを理解し、入念に検証していくことが重要です。

1. 「患者背景」を理解する。
2. どの臓器の感染かを見極める。
3. 原因となる微生物を絞り込む。
4. どの抗菌薬を選択するか?
5. 適切な経過観察。

患者さまの行動様式や既往歴、家族歴などを知ることは感染症診療の基本。同じように見える患者さまでも、背景が異なれば原因微生物が異なり、その結果治療も変わってきます。患者さまの背景を知り、原因臓器を詰め、微生物を固定できれば、それに対して有効な抗菌薬が選択できます。また、適切な経過観察をするにはその病気の自然経過を知っておくことが大切で、自然経過を知っていれば、患者さまの状態がそこから外れればおかしいと判断でき、仕切り直しができます。こうした感染症診療におけるモノの見方は、医師だけでなく、他の医療スタッフにも応用できるはずですよ。



健康コラム

「急性虫垂炎の話」

医員 仲井 希

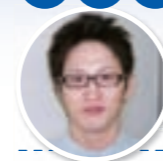
専門分野：消化器・一般外科
所属学会：日本外科学会
日本臨床外科学会
日本大腸肛門病学会
日本内視鏡外科学会



いわゆる「盲腸」と呼ばれる急性虫垂炎は昔も今も多い病気です。老若男女誰にでも起きます。典型的な症状はお腹の右下の痛みですが、似たような痛みが尿路結石や腸炎、特に女性の場合には子宮や卵巣の病気で起きる事もあり、時に診断は困難です。最も推奨されている治療は手術です。抗生物質の点滴のみで一旦治ってしまう事も多いですが、点滴治療で治らず手術に至る確率が約3割、一旦治っても数カ月から1年以内に再発し手術に至る確率が2～3割と報告されています。特に乳幼児や高齢者などの免疫力が弱い方の場合、数時間でひどい腹膜炎になってしまう事もあり、注意が必要です。一方で早期の手術は避けた方が良いでしょう。発症

して5日以上経っているような虫垂炎では、周りの臓器まで炎症が及んでいて切除する範囲や傷が大きくなる恐れが、また抗血小板薬や抗凝固薬を飲んでいる方は血が止まりにくく大量出血の危険があります。こうした方々は点滴やチューブを刺して膿を吸い出す方法で一旦治療し、再発防止のために数ヶ月後改めて手術を行うこともあります。手術には開腹手術と腹腔鏡手術があり、腹腔鏡の方が傷の痛みや化膿が少なく、手術後の回復も早いとされています。当院でも腹腔鏡手術を第一選択としており、2011年度は全例腹腔鏡でした。さらに可能な症例では単孔式(1ヶ所の傷)手術を行っています。よくある病気ですが、診断と治療について十分に説明し、治療を受けて頂くことが重要と考えています。

理学療法編



渡邊理学療法士の

リハビリ まめ知識

「歩き方を変えて 効率的に運動をしましょう」

だんだん、暖かい季節となってきました。このような季節には散歩に出かけるなど、屋外で運動をする機会が増えてくると思います。そのような時に、より効率的に運動ができればいいと思いませんか? しかし、「何をすればいいかわからない」、「あまり疲れる運動はしたくない」という方もいると思います。そこで、今回は **効率よく歩く方法** を紹介したいと思います。

- ① **胸を張り、目線を上げましょう。**
まずは姿勢を正すことが大事です。

- ② **いつもより少し大股で歩きましょう。**
少し大股にすることで、太ももの筋肉を使うことができます。
- ③ **足を振り出すとき、つま先で地面を蹴りましょう。**
ふくらはぎの筋肉を使うことができます。
- ④ **肘は90°に曲げ、軽く振りましょう。**
リズム良く歩くことができ、腕の筋肉も使うことができます。

これらを意識して歩くだけで全身を動かすことができ、効率的に運動をする事ができます。これは、普通の歩き方を変えるだけなので**簡単に疲れることはありません**。どの方も気軽に行えますので、ぜひお試しください。

知ってトクする 佐藤薬剤師の

くすりのお話し



残ったお薬はどうしていますか?

薬には食べ物と同じように使用期限、決まった保管方法があります。一般的には、室温保存・未開封で6カ月から3年がメーカーの保証期限です。そこで今回はお薬の管理についてお話いたします。

- ◆ **目薬**…開封後1か月以内に使い切るのが原則。古い目薬を使うと感染や充血などの原因となることもあります。残っているからと安易に使用することは避けましょう。
- ◆ **水剤**…開封で希釈されたものなら14日間が目安。残った場合は破棄しましょう。

- ◆ **軟膏・クリーム**…開封後は6カ月から1年。2種類以上の薬剤が混合してある場合はより短くなります。分離しているなどの外観変化がある場合は期限内でも破棄してください。
- ◆ **坐薬**…冷蔵保管が原則。半年から1年を目安に使用してください。

※薬をもらった時、開封日や処方日を容器に記載することが大切です。そして年に1回はお薬箱を整理し、時間が経ったお薬は処分するようにしましょう。
※病院で処方されたお薬は自己の判断で使用せず、まずは医師、薬剤師に相談してください。